



2013年4月 第11巻第4号

・今月の思想

かく語りきー聖人の言葉

5月の予定

「君は、自分を信じるようになるまでは神を信じることはできない」

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

・ 生誕日 ・

シュリー・シャンカラチャーリヤ
5月15日(水)

「私の心があるところに、あなたの御姿あれ。私の頭のあるところに、あなたの御足あれ」

(シュリー・シャンカラチャーリヤ)

シュリー・ブッダ
5月25日(土)

今月の目次

・ 行事 ・

5月4日(土) 14:00~16:00
東京・インド大使館例会
講義：バガヴァッド・ギター (無料)
場所：インド大使館 : 03-3262-2391
お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

- ・ かく語りきー聖人の言葉
- ・ 今月の予定
- ・ 日本ヴェーダーンタ協会、シュリー・ラーマクリシュナ生誕 178 周年記念祝賀会を開催
- ・ 「シュリー・ラーマクリシュナの魅力」スワミー・メーダサーナンダによる講話
- ・ 「宗教と無宗教」 2012年夏季リトリート スワミー・メーダサーナンダの講話 第2部
- ・ 忘れられない物語

5月12日(日)、19日(日)、26日(日)
ハタ・ヨーガ・クラス 14:00~15:30
場所：新館アネックス *体験レッスンもできます。
お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

5月11日(土) 17:00~
シヴァーナンダ・ヨーガ東京センター

講話

詳細：<http://www.sivananda.jp/>

5月19日（日）10:30～16:00

逗子定例会

場所：逗子本館

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

5月24日（金）

ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動

現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

5月25日（土）

関西地区講話 13:30～17:00

場所：大阪研修センター

内容：「バガヴァッド・ギーターとウパニシャッドを学ぶ

日本ヴェーダーンタ協会、シュリー・ラーマクリシュナ生誕 178 周年記念祝賀会を開催

2013年3月17日（日）、日本ヴェーダーンタ協会は、逗子例会の全日プログラムとしてシュリー・ラーマクリシュナ生誕 178 周年記念祝賀会を逗子本部別館にて開催しました。祝賀会の準備は前日から始まり、ボランティアの方々、ホーリー・マザー・ハウス（女性）と逗子本部本館（男性）に前泊してお手伝いをしてくださいました。

祝賀会当日のプログラムは午前6時、マンガラ・アーラティ、聖句詠唱、賛歌朗唱、瞑想で始まりしました。午前10時30分、スワミー・メーダサーナンダが礼拝とアーラティを執り行いました。そして、参加者全員に花のつぼみが配られ、皆でマントラを唱えてその花を祭壇にささげました（プシュパンジャリ）。続いて、来賓の在日インド大使館首席公使サンジャイ・パンダ氏により協会の新刊『永遠の物語』が披露されました。この本は、協会の隔月発行の雑誌『不滅の言葉』にこれまで掲載された短い物語の英語・日本語を1冊にまとめたもので、生き方のヒントになるような感動的な物語が集められています。



その後、護摩焚きが行われました。護摩の煙は吹き抜けの2階の天井裏まで達し、2階の窓から外へと流れていきました。護摩木やくべられたギー、花、葉の供物の匂いが建物全体に広がる中、参加者は儀式の様子を厳かに見守り、ホラ貝やベルの音、マントラを唱える声に耳を傾けました。また、シュリー・

ラーマクリシュナに捧げるマントラを、神聖な回数である 108 回、皆で唱えました。鎮火の後参加者は列を作り、マハーラージから額に聖灰を一人一人つけてもらいました（バスマ）。



午後 1 時 30 分、本館と別館に分かれて、皆で昼食のプラサードをいただきました。午後 2 時 45 分、別館で午後のプログラムが始まり、マハーラージと一緒に皆でヴェーダの平和のマントラを唱えました。そして、マハーラージが「シュリー・ラーマクリシュナの魅力」をテーマに講話を行いました。通訳は佐々木陽子氏でした。（講話は本号に掲載されています。）



その後の音楽プログラムでは、日本人信者のグループとカイラス横浜校の皆さんによる日本語の賛歌、インド人信者によるヒンディー語の賛歌、ロニー・ハーシュ氏による英語の賛歌が披露されました。そして、ゲスト・アーティストとしてお招きした、高名なシタール奏者 井上憲司氏とタブラ奏者 ディネシュ・ドヨンディ氏がアンサンブル二曲を演奏されました。最後に皆で瞑想をした後、茶菓が振る舞われました。



午後 5 時 30 分、夕拝が行われ、祝賀会のプログラムが終了しました。



「シュリー・ラーマクリシュナの魅力」 スワーミー・メーダサーナンダによる 講話

シュリー・ラーマクリシュナ生誕 178 周年記念祝賀会の午後のプログラムでは、初めに、スワーミー・メーダサーナンダの先導に従い皆でヴェーダの平和のマントラを唱和しました。そして、マハーラージが以下の講話を行いました。

た。

シュリー・ラーマクリシュナになぜ私たちは惹かれるのか

時折、私は「なぜ私たちはシュリー・ラーマクリシュナに惹かれるのだろうか」と自問自答します。ラーマクリシュナに魅力を感じるのは私たちインド人だけでなく、日本やヨーロッパ、アメリカなどの人々も同様です。また、ヒンドゥー教徒だけでなく、キリスト教徒や仏教徒も惹きつけられます。ラーマクリシュナは、外見上カリスマ性があるわけでもなく学者でもありません。教育を受けていない、村の一祭司がなぜこんなにも多くの人々を惹きつけるのでしょうか。実は、ラーマクリシュナが生きている間はそれほど多くの人が興味を持っていたわけではありませんでした。しかし、亡くなった後、そのメッセージは短い間に世界中に広まりつつあります。世界で一体どれくらいの方が彼の教えを信奉しているのでしょうか。どれくらいの方が彼の名を聞いたことがあるのでしょうか。

今朝、神奈川県茅ヶ崎市にお住まいのご夫婦が初めてここにいらっしゃいました。奥様はお医者さんで今ここにいらっしゃいますが、恥ずかしいでしょうから、どの方か皆さんに言うのはやめておきます。その方のお話では、二、三年前に『ラーマクリシュナの福音』

の初期の日本語版を読み大変感銘を受けたそうです。ラーマクリシュナによる影響を受けたという人が一体何人いるのか分からないと言ったのは、このような例があるからです。

私たちがラーマクリシュナに惹かれるのは、私たちの魂が、巨大な魂、スーパーソウルに惹かれるのです。ちょうど、鉄が巨大な磁石に引きつけられるようなものです。さて、ラーマクリシュナのようなスーパーソウルの特徴ですが、今日はそのうち主な三つについてお話ししたいと思います。その三つとは、

1. 無限の喜び
 2. 無限の力
 3. 無限の知識
- です。

無限の喜び

私たちは皆、喜び、力、知識を欲しています。スワミー・アドブターナンダ（ラトゥ・マハーラージ）に、ある弟子が聞きました。「私はシュリー・ラーマクリシュナを見たことはありませんが、あなたはラーマクリシュナをご存じです。ラーマクリシュナはどのような人でしたか」ラーマクリシュナの信者や信奉者であれば、このように知りたいと思うでしょう。ラトゥ・マハーラージは遠回しにこう答えました。「君は、シュリー・ラーマクリシュナ

をみたことはなくても、スワミー・ヴィヴェーカーナンダを見たことはあるね。どう思ったかな」すると、弟子の顔は喜びでいっぱいになりました。「スワミーの近くにいとると、自分の中から内なる喜びがあふれ出すのを感じました」弟子の言葉にラトゥ・マハーラージは、その通りだ、誰でもそう感じたと同感しました。

スワミーは、ヴェーダーンタについて説くために西洋に行った時、常に楽しげで冗談を言っていました。西洋では一般に、聖職者は非常にまじめで、はっきりしない感じで、笑わず笑みも浮かべずほとんど口をきかないと考えられています。ですから、スワミーの態度はこのようなイメージと違っていたので、キリスト教徒の多くはこれに驚きました。しかし、スワミーは喜びにあふれた様子をほとんど隠そうとしなかったため、時折非難めいた調子でこう尋ねられました。「スワミー、あなたは真剣になることはあるんですか」即座にスワミーはまじめな態度になって、重々しい声で言いました。「ええ、お腹が痛い時は真剣になります」

さて、先ほどの弟子の質問に戻りましょう。ラトゥ・マハーラージは言いました。「そうだね、スワミーは、喜びに満ちていた。でも、ラーマクリシュナはその 100 倍楽しそうだったよ」

本当にどれほど喜びに満ちていたのか想像が難しいかもしれませんが、これは本当です。なぜなら、シュリー・ラーマクリシュナは、無限の喜びが具現化された存在だったからです。近くにいるだけで誰もが、ラーマクリシュナの発する喜びを感じたものでした。周りにいる全ての人に、常に影響を与えたのです。

ホーリー・マザーはラーマクリシュナが亡くなった後も長く生きましたが、同じ質問に対してやはり、彼は常に喜びに満ちていたとよく答えていました。老いも若きも、誰といても、ラーマクリシュナは喜びに満ちていました。スワミー・トゥリヤーナンダジ（ハリ・マハーラージ）は、ラーマクリシュナの若い弟子でしたが、ダクシネシュワルにラーマクリシュナを訪ねるといつも、師と共にいる間に感じた喜びが、自分がコルコタに戻ってからも10日も15日も続いた、と後になって語っていました。東の間の喜びではなかったのです。世俗の普通の喜びとは、大きな差があります。美しい映画や劇を見たり、美しい歌を聴いたりすると喜びを感じますが、その喜びはどのくらい続くのでしょうか。すぐに消えてしまいます。しかしラーマクリシュナを訪ねて短時間一緒にいるだけで、いつまでも酔いしれたような気持ちになったのです。

無限の力

怒りや欲望、高慢、妬みなどの悪い性向に悩んでいる場合、それを直すために自分を変えるのがどれほど大変か、私たちは経験から知っています。おそらく、長期間の「苦行」の実践、すなわち祈りや瞑想、識別などでこのような性向を克服することはできるでしょうが、もちろん非常に大変です。では、ラーマクリシュナの力はどうだったのでしょうか。ここで言う力とは、力士のような肉体の力を指すわけではなく、基本的に霊的な力のことです。ラーマクリシュナには人の心を変える力がありました。信者にただ触れるだけで、あるいはただ願うだけで、その心を浄めることができました。それだけではなく、霊的な経験をさせることさえできたのです。霊的修行をしたことがある人なら、霊的経験を得心どころか心の制御だけでもどれほど大変か知っています。霊的修行の経験がないと、この難しさは完全には分からないと思います。

この点だけでも、ラーマクリシュナの非凡な力、超人的な力が分かるでしょう。一度触れるだけで、一目見るだけで、またはただ願うだけで、罪人を聖人にすることができたのです。スワミー・シヴァーナンダジがある日、ダクシネシュワルのパンチャヴァティの木の下で瞑想をしていると、突然シュ

リー・ラーマクリシュナが目の前に立って自分を見ているのに気付きました。その瞬間、シヴァーナンダジは、とてつもなく大きな靈的高まりを感じ、深い瞑想に入り気を失いました。シヴァーナンダジは後に、ラーマクリシュナが願っただけで人はサマーディに入ることができたと言っていました。

スワームījは、ラーマクリシュナが陶器職人のようだと述べていました。陶器職人は粘土の塊から何でも思いのままに作ることができますが、ラーマクリシュナは思いのままに心を形作ることができたのです。ラーマクリシュナは読み書きができましたが、スワームīj・アドブターナンダジは以前は召使いで読み書きが全くできませんでした。しかし、ラーマクリシュナの恩寵により、召使いのラトゥは非凡な聖人アドブターナンダジとなったのです。

ある日、ラトゥ・マハーラージはラーマクリシュナの足をさすっていました。ラトゥ・マハーラージのイシュタは主ラーマでした。ラーマクリシュナは突然尋ねました。「ラトゥ、お前のラーマが今何をしているか分かるか」「主ラーマが何をしているかなんて、どうして私に分かるでしょう」とラトゥ・マハーラージは困惑して答えました。すると、ラーマクリシュナは静かに言いました。「お前のラーマは今、針の穴にゾウを通してぞ」

何年も経った後で、アドブターナンダジは、自分の求道者としてのレベルは大変低かったので、足をさすっている間にシュリー・ラーマクリシュナは自分に靈的な力を注ぎ込んでいたのだ、針の穴にゾウを通すとはそのことを意味していたのだ、と述べていました。

ギリシュ・チャンドラ・ゴーシュは偉大な劇作家、俳優、作曲家で、非常にインテリでしたが、自由奔放な生き方をし、世俗の喜びに浸っていました。ギリシュはよく、自分が座った場所はそこが汚れるだけでなく地中の奥深くまで汚れると述べていました。後に、シュリー・ラーマクリシュナの恩寵によって、ギリシュは徳の高い人間になり、大変純粹になりました。ラーマクリシュナが亡くなった後、ある日ギリシュはガンガーに沐浴に行きました。これはめったにないことでした。ご存知の通り、ヒンドゥー教徒は、ガンガーで沐浴すると汚れが浄められると信じています。さて、有名人のギリシュは、沐浴の最中何かつぶやいていました。近くの人が好奇心に駆られてギリシュに近寄り、耳をそばだてました。ギリシュはこう言っていたのです。「母なるガンガーよ、汚れを浄めるために私が沐浴しに来たと思わないでくださいよ。シュリー・ラーマクリシュナの恩寵で、私はもう純粹です。むしろ、あなたを浄めるために沐浴しているの

です」

このような話はいくつもありますが、こうした話から、ラーマクリシュナの無限の力がどれほどのものか垣間見ることが出来ます。



無限の知識

シュリー・ラーマクリシュナは正式な教育はほとんど受けておらず、聖典の勉強も正式にやったわけではありません。しかし驚くべきことに、当時の宗教学者が何人となき、疑念を晴らしにラーマクリシュナのもとにやって来ました。これはかなり珍しいことです。ほとんど教育を受けていない人の所に、何かを学びに学者がやってくるものでしょうか。二者の違いは、ラーマクリシュナは学者ではなく悟りの魂であったという点です。聖典にもこう書かれています。「人が真理を知ると、ハートのもつれは全て解け、疑いは全て消える」

ラーマクリシュナはよく、悟りの魂は勉学の女神から知識を与えられるのだ

と言っていました。悟りの魂は、いかなる知識も欠けることはありません。使い切ったとを感じるや否や、また新たに与えられるのです。例えば、人格神と非人格神の概念をどう調和させればいいのかという問題がありました。インドでは数百年にわたり、学者や宗教団体の中でこの問題について大論争が起りましたが、十分な答えは見つかりませんでした。

たぐいまれな霊的洞察力を持つラーマクリシュナは、この神学上の問題を、水の様々な状態という最もシンプルな例を挙げて解いたのです。水の構成である H₂O という状態を目で見ることにはできません。分子がまとまって、一定の形を持たない水となった時、目に見えるようになります。氷になると、形のある水として見る事ができ、蒸気になると再び見えなくなります。『ラーマクリシュナの福音』では、水を求めて池にやって来る様々な人々が例として挙げられています。ヒンドゥー教徒はジャルを汲み、イスラム教徒はパニを汲み、イギリス人はウォーターを汲み、ローマ人はアクアを汲み、日本人は水を汲むのです。しかし、これらは全て同じ水です。ラーマクリシュナは、このことを聖典から学んだのではありません。悟りに基づいた観察力と、母神から与えられた知識の力があつたのです。

シュリー・ラーマクリシュナに噛まれますように

初めに申しましたように、私たちは魂で、ラーマクリシュナはスーパーソウルです。また、私たちは鉄、ラーマクリシュナは磁石であり、だから私たちは引きつけられるのです。最後に、ラーマクリシュナが自分を喩えていったことをお話ししましょう。「私は猛毒のヘビ、コブラである。コブラに噛まれたら、カエルはやがて死んでしまう。では、ヘビに噛まれるのと私に噛まれるのと何が違うのか。ヘビに噛まれると、人は死ぬ。私に噛まれると、人は『アマリタ』、すなわち不死になる」恐がらないでください、生きるか死ぬかの違いだけです。シュリー・ラーマクリシュナの生誕祝賀会という縁起のよい行事にあたり、私たち皆がラーマクリシュナに噛まれて「アマリタ」になるよう、心から祈ります。

「宗教と無宗教」

2012年夏季リトリート スワームィ・ メーダサーナンダの講話 第2部

4. 神を信じきれない人への助言

神を信じきれない人の中には、もし神様がいるのなら、なぜこんなにひどい災害が起こるのかと疑問を持つ人がいます。神様は常に神の子供たちの世話

をし、子供たちを困らせることはしないだろうと考えるからです。神様の全体像である「創造・維持・破壊」の働きについては考えず、神様に文句を言うのです。

それに、死は全ての消滅ではありません。『バガヴァッド・ギーター』に「魂は、ちょうど人が古い服を脱ぎ捨てて新しい服を着るように、新しい肉体を取る」という一節があります。個々の魂は悟るまで肉体を変え続けるのです。すなわち新しい服を着て力とやる気を得て、悟りという目標に到達するまで自己成長を続けていくということなのです。

もし神様から地震や津波などの出来事を通じて伝えたいメッセージがあるとするならば、多分それは「私たちの現在の生活を変えてください」ということだと思います。いつも一時的なものばかりに焦点を当て人生を送っている、地震が怖い、津波が怖いと恐れ、ストレスや恐怖は無くなりません。神様のサポートは永遠で力強くどこにでもあると言われている。神様は私たちが死んだあとも、生きている時とは違う方法でサポートしてくれています。死を怖がらないで神様にお任せするのです。

神様はどうして私たちに困ったことを与えるのか、という問いがあるかも

しれません。しかし問題がなかったら、あなたは力を振り絞って問題を解決しようとしなかったでしょう。生まれてから死ぬまで一生同じレベルのままです。自分を振り返ってみてください。問題があった時こそ力が出ませんでしたか？困ったときこそ祈りが深くなりませんでしたか？神様の目的は私たちが賢くなること。強くなること。私たちは確かに過ちから学んでいます。そのようにして強く賢く成長していくのです。そして私たちはずっと後になって分かるのです、あの困難こそ神の恩寵だったと。それだけではなく、問題が起こることで悪いカルマが消失することもあります。

5. 「神」のさまざまな相

では神は、どのような姿でどのような相をお持ちなのか。神様の一つの相は、「純粹意識」であるということ。意識について考えてみましょう。私たちにも意識がありますね。意識がなければ何もできない。私たちの体、感覚、心、知性は全て物質で、これらを動かしているのが意識です。意識は、ミクロレベルでは魂と呼ばれ、マクロレベルでは神と呼ばれます。

二番目の相は、意識だけでなく「性質」がある意識という姿。その性質は全知、全能、遍在、優しさ、愛です。キリスト教、イスラム教の神のアイデアはこ

れにあたります。

三番目は、意識に性質も「形」もあるというアイデアです。日本の神道には天照大御神や弁天様がいますね。ヒンドゥー教にも、シヴァ、ヴィシュヌ、ドゥルガなどたくさんの神さま女神さまがいます。一方、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教では神に形はありません。

そして四番目の神の相は、混乱のとき人間を平和・喜び・悟りへ導くために人間の形で現れる「化身」です。クリシュナ、ブッダ、モハンマド、イエス、近代ではラーマクリシュナがその例です。またクリシュナはクリシュナとラーダーとして、ラーマクリシュナはラーマクリシュナとホーリー・マザーとして、同じ存在が二つの相で現れました。キリスト教での「神の子」(イエスのこと)、イスラム教での「預言者」(モハンマドのこと)、またヒンドゥー教の「アヴァターラ」はこの概念です。

ところで、ほとんどの宗教は神のこうしたさまざまな相の一つだけを信じなさいといいますが、ヒンドゥー教では全ての相を真の姿と見なして信じています。「あなた」を説明するとき、あなたは〇〇さんであり、両親にとっては子どもであり、子供にとっては親であり、さらに夫か妻であり、買い物客であり、会社員であると説明するでし

よう。それら全てが「あなた」です。それと同様、ヒンドゥー教は、神の表れにはさまざまな相があり、それらすべてを神として信じます、という包括的なアイデアです。ですから各自の力や好みに応じ、それぞれがそれぞれの神の相を選択し信仰すればよいのです。

6. どのように神を悟るか

ところで、三つの検証道具（聖典・聖者の経験、論理、自分の経験）を使って、さて具体的にどのような実践（「バター」をつくるプロセス）をすればよいのか。霊的になる第一歩目は道徳的になる、ということでした。それは心と体を純粹にすることです。その過程で、今は内に隠れるアートマン（「私」の純粹意識）が現れ輝き出すのです。

さまざまなヨーガがあります。それらを組み合わせて実践するのがよいでしょう。どのヨーガをするにせよ大事なことは、心の清らかさと、神様のことを集中して考えることです。では、それぞれのヨーガを簡単に説明しましょう。

・バクティ・ヨーガ。世俗的なものに向けている愛や感情をすべて神様に集中して向けて神を悟る、愛または信仰のヨーガです。

・ラージャ・ヨーガ。瞑想のヨーガ。心と感覚を制御して、瞑想を通じて内

なる自分に集中し、神を悟ります。

・ギヤナ・ヨーガ。知識の道。識別の道。何が永遠？何が無限？何が絶対？と、永遠なものは何かを識別していく道。一時的で有限なものは「それでもない、それでもない（ネーティ、ネーティ）」と、振り落としていきます。そして、心は絶対者に完全に集中し、合一します。

・サハジャ・ヨーガ。長い瞑想も複雑な儀式もいらない、簡単なヨーガ。神様の名を唱えるヨーガ（ジャパ）です。仕事の時、食事の時、お風呂の時、心のどこかでジャパを行います。やがては二四時間寝ている時までその唱えが続きます。それがジャパの至高の状態です。

今回はリトリートに来ているので一日のスケジュールが決まっています。朝起きて瞑想し、賛歌を歌い、ヨーガアーサナをし、霊性の本を勉強して、神様にお供えをし、また賛歌を歌い瞑想して一日を終えます。こうして、毎日少しずついろんなヨーガをすることができます。これを調和的なヨーガと呼び、ヴェーダーンタ協会ではこれを実践しています。肉体や感覚、心、知性、霊性のレベルでさまざまなヨーガを取り入れることで「私全体」が純粹化していきます。また、バランスよく、負担少なく、行じていくことができます。また、結果について考えずに働き、結果は神様に捧げましょう。そうする

ことで、私たちの仕事そのものが霊的な仕事になるのです。

私たちの問題は、霊的な本を読んでも霊的な講話を聴いても変化がないことです。これは、心というものが変化を好まないことからきています。頭で理解しても心が反対するのです。心は、今のライフスタイルを変えたくない、変化したら自由が損なわれるから、と言います。ですから、やる気を出すには大きな努力が必要です。例えば、自分のための投資の中でも、瞑想が最も利益を生むのだと心に言い聞かせるのです。瞑想は、心を制御し平安を生むのに役立ちます。また、人間関係を円滑にし、自分の義務をより良く行えるようにしてくれます。

7. 神の助け

神様はどのように私たちを助けてくれるのか——我々にはそれが分からないときがあります。神様の助けにはいろんな意味、いろんな方法があり、助けないという方法もあるのです。もう一つの物語です。あるとき洪水で町に水が押し寄せてきました。ある人——神の信者でした——は高い建物の屋根にのぼり、救助を待っていました。手こぎのボートが救助に来ました。しかし「私は神の信者ですから、神様がきっと助けにきます」と救助を断ってしまいました。次にモーターボートが来

ました。が、やはり「神様が助けにきます」と言って、乗りませんでした。水位はどんどん上がっています。最後にヘリコプターが救助に来ましたが「神様がきます」と救助を拒否しました。その人はおぼれてしまいました。

神の信者なのでその人は天国に行き、神と面会しました。信者は言いました。「私はあなたに怒っています。信者が困ったとき神様は助けに来るはずです。私はあなたにこんなに深い信仰があるのに、あなたは助けに来ませんでした」神様は言いました。「私はあなたを助けるために三回、人を送りましたよ。はじめは手こぎ船、そしてモーターボート、最後にはヘリコプターまで送ったのに、あなたは気づきませんでした。これ以上私にどうしろと言うのですか」

神が助けて下っていることに、私たちは気付かないことがあります。神のやり方は様々であり、時には変わった方法を用いることもあります。著名な劇作家・俳優のギリシュ・チャンドラ・ゴーシュは、シュリー・ラーマクリシュナの最初の家住の信者の一人でした。ギリシュは意味深長にこう言ったことがあります。「神が我々の祈りを聞いてくださるのは、神の恩寵だ。だが、祈りを聞いてくださらない時こそ、より大きな恩寵である」これは深い意味のある発言で、これがどれほどの意味を

持つか、自分の過去の経験に照らし合わせて考えてみる必要があります。しかし一般に、私たちが大きな問題を抱えている時心から祈れば、神は助けを送ってくださいます。

こんな物語があります。ある人が海にのまれて沖合まで流されてしまいました。その人はまったく神を信じていませんでした。けれどもそのときは荒波にもまれながら、心から祈ったのです。「もしこの状況から助けてくれる存在があるならば、その存在よ、どうかこの私をお助けください」突然イルカが現れて、その人を岸まで押し戻してくれました。安全なところまで来ると、イルカは沖へと消えていきました。

8. 神は必要であるか

たいていの人にとって、神は必要でしょう。困った時、危険に巻き込まれた時、自分を助けてくれる超自然的存在が必要となります。人生の荒波にもまれ、人は慰めや支援、逃げ場が必要です。そして、そこに神を見いだすのです。苦しみの時、神は平安と安らぎの大きな源と見なされます。しかし、神が必要である理由はこれだけではありません。私たちが神を求めることにはもっと大きな目的があります。人生の目的とは真理を知ること、それなくして私たちの人生は全うできません。神は真理であり、絶対の存在、絶対の

知識、絶対の至福でもあります。だから神が必要なのです。

最後に、「神」という言葉が好きでも嫌いでも、神を信じても信じなくても構いません。お寺に行くか行かないか、神を礼拝するかしないか、聖典を読むか読まないか、これはそれほど大切ではありません。本当に大事なものは、一時的なことにだけでなく、永遠のことにも気持ちを向けることです。「永遠」とは神の表れであり、いつまでも続く平安と喜びであり、誰もが求めることなのです。

(2012年7月28日～29日・御岳山宿坊能保利にて)

(この講話は、田辺美和子氏によるレポートを一部編集したものです。)

忘れられない物語

人生とマヨネーズのびん

ある教授が、受け持ちの哲学科の学生たちの前に立ち、目の前にいくつか物を並べました。授業が始まると、教授は黙ったまま、とても大きい空のマヨネーズびんを手に取り、ゴルフボールを一杯に詰めました。それから学生たちにびんが一杯になっているかどうか尋ねました。学生たちは、一杯ですと答えました。教授は次に小石の入った箱を取り、小石をびんの中に加えまし

た。それから、学生たちにびんが一杯かどうか再び尋ね、学生たちは一杯ですと言いました。

教授は次に、砂の入った箱を取り、砂をびんの中に注ぎました。もちろん、砂はすきまに一杯になりました。もう一回、教授はびんが一杯かどうか尋ねました。学生たちは全員一致で「はい」と答えました。それから、教授はコーヒーを二杯用意して、それを全部びんの中に注ぐと、コーヒーは砂の間のすきまを埋めました。学生たちは笑いました。

笑い声が静まった頃合いに、教授は「さて」と言いました。「私は、このびんが君たちの人生を表しているということを理解してほしいんだ。ゴルフボールは君たちにとって最も大切なもの・・・信仰、思いやり、誠実さ、道徳性など、もし、他の何もかもを失ってそれだけしか残らなくても、君たちの人生を満たしてくれるものだ。小石は、これらのものを土台にしたもの、君たちの家族や人間関係、健康など、やはり大切なものを表している。砂はそれ以外のものすべて・・・すべてのささいな事柄、君たちの地位や財産、そして束の間の欲求などだ」

「もし、砂を最初にびんに入れたら」と、教授は続けました。「ゴルフボールや小石を入れる余地がなくなってしまう。

う。同じことが人生にも言えるんだ。もし君たちが、世の中や人生の一時のはかないことに時間や活力のすべてを費やしたら、大切なものに使う余地が全くなくなってしまう。本当の幸せを左右する大切なものに注意して目を向けるんだ。まず、ゴルフボール、つまり本当に重要なものを大切にしろ。小石は自然にやって来る。優先順位を決めれば、残りはただの砂だ」

一人の学生が手を挙げて、コーヒーは何を表すのか質問しました。教授はにこやかに答えました。「いい質問だね。ちょうど言おうと思ったところだったんだ。君たちの人生がどれほど一杯に思えても、友達とコーヒーを二杯飲む余地はいつもあるということさ」

(作者不詳)

今月の思想

「他者を知ることは知であり、自己を知ることは悟りである」

(道徳経)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp